

背景・ねらい

富山県産白ネギの9月以降の出荷物において、「黄色斑紋病斑」と呼ばれる葉の変色・黄化が認められ、等級落ちの一因となっている。発生防止に向けた栽培技術の開発が求められるとともに、品種間差が示唆されることから、黄色斑紋病斑の品種間差を検討した。



成果の内容

- ①ネギ黄色斑紋病斑の発生は、品種間差と年次変動が認められる(表1、2)。
「関羽一本太」は黄色斑紋病斑の発生が少ない品種である。

表1 4月移植-9月収穫作型における黄色斑紋病斑の発生と収量構成要素の年次間差

	黄色斑紋病斑指数			調製重(g)			収穫率(%)			細菌性病害率 ^z (%)
	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2019年
一翠太	0.2	1.1	0.4	177.4	173.2	135.2	-	92.2	91.7	43.3
関羽一本太	-	1.5	0.1	-	157.4	147.9	-	83.2	100.0	20.0
源翠	0.0	-	0.3	160.2	-	139.7	-	-	96.7	3.3
夏扇パワー	0.1	2.3	1.5	174.5	156.2	138.6	-	83.5	90.0	20.0
夏扇4号	-	2.8	1.1	-	156.5	140.9	-	85.0	96.7	23.3
森の奏で	0.1	3.2	-	158.2	152.6	-	-	88.8	-	-

z:出荷できない程度のものを数えた

黄色斑紋指数は病斑面積を指数化したもので、指数が2を超えると等級落ちとなる程度の被害

表内の- はデータがないことを示す

表2 5月移植-10月収穫作型における黄色斑紋病斑の発生と収量構成要素の年次間差

	黄色斑紋病斑指数			調製重(g)			収穫率(%)			台風葉鞘折損率 ^z (%)
	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2017年	2018年	2019年	2019年
一翠太	2.1	0.6	1.2	-	162.4	調製株なし	92.5	91.4	100	100.0
関羽一本太	0.9	0.7	2.0	-	142.9	158.9	97.5	95.3	100	20.0
源翠	2.7	-	1.8	-	-	145.4	92.5	-	100	40.0
夏扇パワー	2.9	1.4	3.4	-	139.9	170.0	95.0	89.4	100	40.0
夏扇4号	-	2.1	2.8	-	137.9	156.2	-	84.7	100	23.3
龍美	1.1	0.4	1.9	-	127.9	115.0	97.5	86.1	100	20.0

z:出荷できない程度のものを数えた

黄色斑紋指数は病斑面積を指数化したもので、指数が2を超えると等級落ちとなる程度の被害

表内の- はデータがないことを示す

- ②品種にかかわらず収穫時期が遅くなると、ネギ黄色斑紋病斑の発生株率、発生葉率、指数が大きくなることから、適期収穫に努める(表3)。収穫が遅れることが予想される場合は、事前の薬剤防除により予防する。

表3 収穫時期が黄色斑紋病斑の発生に及ぼす影響(2019年)

収穫時期 (最終土寄せからの経過日数)	4月移植-9月収穫			5月移植-10月収穫		
	黄色斑紋病斑発生株率 ^z	黄色斑紋病斑発生葉率 ^y	黄色斑紋病斑指数	黄色斑紋病斑発生株率 ^z	黄色斑紋病斑発生葉率 ^y	黄色斑紋病斑指数
土寄せ1週間後	21.4	10.5	0.5	66.2	35.2	1.4
土寄せ3週間後	35.7	18.1	0.6	96.7	72.5	2.2
土寄せ5週間後	87.6	54.3	1.7	95.7	83.5	2.7

^z黄色斑紋病斑が確認された株率

^y出荷調製後の葉3枚の中で黄色斑紋病斑が確認された葉の割合
値は2019年に栽培した全7品種の平均値